

RECOLLECT リカバリーカレッジ チェックリスト

RECOLLECTチェックリストは著作権で保護されており、許可なく変更することはできません。

詳細情報: researchintorecovery.com/recollect

リカバリーカレッジマネージャーバージョン パートI

手順

このチェックリストは、あなた方のリカバリーカレッジが、理想のリカバリーカレッジにどれだけ近づいているかを評価するために作成されたものです。

あなた方のカレッジの現在の強み（ストレングス）と成長できそうなところを振り返ることによって、さらなる発展に役立つことを目的とした自己啓発のチェックリストです。得点は算出されません。

説明

次のページでは、リカバリーカレッジの7つの主な特徴を紹介します。各項目について、それぞれ低（赤）、中（黄）、高（青）の3つの段階が記載されています。この尺度は、あなた方のリカバリーカレッジ全体を把握している人、例えば、リカバリーカレッジのマネージャー（※運営者、管理者、代表、ピアの講座担当者など）が記入してください。あなた自身のリカバリーカレッジに対する見解と経験に最も合致する記述にチェックを入れてください。

1. 対等性の尊重

受講者、講座担当者（ピア、治療者や専門職、ほか）、その他のスタッフの持つ資源や貢献は、等しく価値あるものとみなされます。誰一人として、経歴や精神的な困難を理由に、差別的な扱いを受けたり、決めつけられることはありません。

<input type="checkbox"/>	<p>私たちは、スタッフと受講者がパートナーシップに基づいて、共に取り組む関係を築くには時間がかかるかもしれないと認識しています。スタッフと受講者は協力的である一方で、差別や力関係の問題には、何か起きた場合にのみ対処します。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>私たちのカレッジに関わっているすべての人に、あらゆる機会や研修（トレーニングも含む）が対等にあるとは言いきれません。しかし、私たちのカレッジはすべてのスタッフと受講者を歓迎しています。また対等であろうとし、偏見や差別に立ち向かう構造になっていることを示すことができます。（例：カレッジの見学・体験・説明会、研修、スーパービジョンなど）</p>
<input type="checkbox"/>	<p>私たちは、批判的でなく、誰をも歓迎する文化を積極的に推進しています。カレッジ内では、力関係の問題が常に考慮されるような活動が行われています（例：研修や情報への平等なアクセス、多様な形式の広報資料、機会均等を示す情報など）。</p>
<p>コメント(任意)</p>	

2. 学ぶこと

リカバリーカレッジでは、受講者と講座担当者が「経験や知識、やり方を共有することで、協力し合い、互いに学び合う」という成人教育・成人学習*の考え方にのっとっています。受講者は自分の学びに責任を持ち、対話やふりかえりを通して学びます。

受講者は、自分自身に気付き、困難を理解し、実践的で自分に合った自己管理の仕方を身につけます。受講者は、自分の関心や願望に最も合う講座を選択します。

*訳注

成人教育・成人学習とは、義務教育とは異なって、大人が自らの目的のために学ぶことや経験を用いた学びあいを大切にする教育方法。

<input type="checkbox"/>	私たちは、カレッジの成人教育・成人学習の実践をしているという具体的な例を示すことはできません。医学モデルや心理教育モデルからの強い影響を受けている、ピアの講座担当者のための研修が限られているなど、進歩に対する障壁が私たちのカレッジには多くあります。講座担当者は、学びを提供し、学びあいを促進することはできています。
<input type="checkbox"/>	私たちのカレッジでの成人教育・成人学習の実践例を示すことができます。講座担当者が学びの原則（例：授業計画、言葉遣い）に従い、講座で共同学習（互いからの学びあい）を行うための仕組みが整っています。しかし、新しい講座の立ち上げや募集・決定に時間がかかる、講座担当者の募集・決定や研修に課題があるなど、これらのモデルを完全かつ効果的に実施することを妨げている障壁もあります。
<input type="checkbox"/>	私たちのカレッジは、成人教育・成人学習の原則に全面的に取り組んでいることを示すことができます。これらは、入学案内、講座内容や時間割、講座の教材からも読み取れます。すべての講座担当者（専門職を含む）は、カレッジで用いている成人教育・成人学習の考え方について説明できます。また成人教育・成人学習を提供するのに必要な研修が継続して提供されます。
コメント(任意)	

3.受講者に合わせたカスタマイズ

リカバリーカレッジは、画一的な体験は提供しません。受講者の個別のニーズを受講期間中、積極的に尋ね、対応します。

(例:個別の配布資料、翻訳テキスト、学習困難に応じた教材)。講座外でのニーズにも対応しています(例:個別の移動支援、個別学習計画など)。

<input type="checkbox"/>	<p>私たちのカレッジでは、受講者に個別対応をしている事例はありません。</p> <p>講座担当者は、講座中に受講者の違いに配慮し、対応するための積極的なサポートや研修を受けていません。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>私たちは、受講者の個別のニーズに対応するいくつかの事例を示すことができます。しかし学習が困難な受講者や日本語が得意でない受講者など、まだ満たされていないニーズがあることを認識しています。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>私たちは、講座の内外を問わず、受講者の個別のニーズに対応している多くの事例を示すことができます。</p> <p>講座担当者には、事前に受講者のニーズを把握し、講座の内容／進め方を調整するための手引きが提供されています。</p>
コメント(任意)	

4. リカバリーカレッジにおけるコ・プロダクション

実際に経験してきた人々（ピアの講座担当者や受講者）は、専門職などと一緒に、リカバリーカレッジのあらゆる面を計画し、提供するために集まります。これは、入学案内、講座、カレッジの方針、スタッフ募集、広告などに関する共同の意思決定だけでなく、ピアの講座担当者と専門職などによるすべての講座の共同計画と共同提供が含まれています。

<input type="checkbox"/>	私たちのカレッジでは、リカバリーカレッジの企画運営に関する意思決定に、定期的に受講者やスタッフが参加しています。コ・プロダクションが達成されているのは、講座の共同提供だけです。現時点では、文化や風土、運営上の上下関係、時間など、カレッジ全体のコ・プロダクションにいくつかの重要な課題があることを認識しています。
<input type="checkbox"/>	講座の共同提供だけでなく、リカバリーカレッジの企画運営に関するほとんどの話し合いにスタッフや受講者が参加しています（例：受講者委員会や受講者代表など）しかし、多くの決定はマネージャー（責任者、管理者、代表など）が行っています。
<input type="checkbox"/>	コ・プロダクションの文化や風土が、カレッジで一貫して実践されていると示すことができます。講座の共同提供、講座内容と時間割作り、管理、物理的な環境づくりなど、カレッジのすべての意思決定において、講座担当者と受講者の声は対等です。
コメント(任意)	

5. つながり

カレッジの文化と物理的な環境は、受講者に他者とのつながりを深める機会を提供しています。学びのスペースはリラックスできるようになっています。例えば、治療の場とは違う椅子の配置、飲み物の提供、交流のための共有スペースなどがあります。講座担当者は受講者の社会的ニーズを認識し、それに応えています。例えば、おしゃべりや経験の共有、友情を育むための機会や休憩を企画しています。

<input type="checkbox"/>	<p>講座の構成や物理的な環境を決定する際、受講者の人との交流について検討することは、重要度が低いです。受講者が互いに知り合うための特定のプロセスはありません。講座の会場では、受講者がリラックスしたり交流する場所やスペースがほとんどありません。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>私たちはリカバリーカレッジが受講者にとって歓迎される環境であることを示せます。講座担当者は、可能な限り受講期間中に交流の機会を設けるよう奨励されていますが、それは中心的な役割ではありません。いくつかの講座では、教室の外に生徒がリラックスできるような設備を設けていますが、現実的あるいは経済的な障壁が多くあります。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>多様な受講者が共にいることやつながりが学びとリカバリーに果たす役割について、私たちのカレッジでは認識しています。カレッジには、交流のための様々な設備（例：カフェ、座席エリア、堅苦しくなく広々とした部屋）があります。講座担当者は、受講者同士がより親しくなるための機会を講座の構成に組み込むようにしています。</p>
コメント(任意)	

6. 地域重視

リカバリー・カレッジは、地域の団体（例：地域の機関や活動グループ、芸術・スポーツ団体など）、教育機関や生涯学習の機関と連携し、講座を共同創造しています。カレッジは、受講者に情報、資料、イベントを提供し、受講者がコミュニティで価値ある活動、役割、関係、サポートにつながるようになっています。

<input type="checkbox"/>	<p>私たちのカレッジの地域団体との関わりや地域での存在感はわずかです。地域の団体は、カレッジの会議やイベントに参加しておらず、定期的にカレッジと講座を共同創造したり、スタッフや受講者のための機会を提供していません。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>地域サービスや地域の団体との連携を知ってもらうような活動を行っています。カレッジの講座には、地域の団体と共同創造しているものもあり、受講者には関連する地域の団体やサポートを紹介しています。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>さまざまな地域の団体と協力してカレッジの講座を共同創造し、受講者のこれからにつながるようになっています。地域に対する認識やつながりを構築するための活動を行っています。地域の団体と協力して活動することがカレッジの変化につながったことを示すことができます。</p>
コメント(任意)	

7. リカバリーへの貢献

リカバリーカレッジのスタッフ(関係者)は、リカバリーカレッジについて信念と熱意を持って語り、受講者のリカバリーに献身的に取り組んでいます。カレッジは、リカバリーの原則を大切にしている価値観に基づいていて、前向きなエネルギーがあります。

<input type="checkbox"/>	組織の方針と進め方の手順により、リカバリーカレッジは円滑に運営されています。しかしリカバリーの原則(上記の特徴1から6)の実現のために、スタッフそれぞれが力を注ぐには課題(例:文化、組織構造)があります。カレッジを「これまでとは違う」「意味のある」ものとして確立するためには、まだまだ努力が必要です。
<input type="checkbox"/>	リカバリーの原則の実現のために、積極的にお互いの意欲を高めあっています。私たちは、リカバリーに焦点を当て常に向上することにみんなで取り組んでいます。しかしさらに進むためには課題がいくつか(例:文化的、財政的)あります。
<input type="checkbox"/>	私たちは、リカバリーの原則を積極的に実践し、受講者やスタッフに対する熱意と信念を持って、一丸となって進めています。リカバリーの原則は、カレッジの活動で実践されています。例えば卒業を祝うことや受講者が講座担当者になるなど。
コメント(任意)	

RECOLLECT リカバリーカレッジ チェックリスト

RECOLLECTチェックリストは著作権で保護されており、許可なく変更することはできません

詳細情報: researchintorecovery.com/recollect

リカバリーカレッジマネージャーバージョン パート2

手順

ここは、リカバリーカレッジ全体を把握している人、例えばリカバリーカレッジのマネージャー（※運営者、管理者・代表など）のみご記入ください。またパート2ではさらなる5つの構成要素を挙げています。これらの構成要素については、2つのタイプのどちらかが優れているわけではなく、正解はありません。リカバリーカレッジは複雑で、両方のタイプにまたがっていることも多いと思います。ですので、あなたのカレッジに最も近いタイプを選んでください。

次の各構成要素について、あなた方のカレッジがタイプ1か、タイプ2か、近い方を選んで、チェックしてください。

8. 誰もが利用可能

リカバリーカレッジによって、対象とする受講者は様々です。

	タイプ
TYPE 1 <input type="checkbox"/> リカバリーカレッジは誰でも利用可能です。	私たちのリカバリーカレッジは、支援者やケアラー（ケアをしている人）を含め、大人（16歳あるいは18歳以上など）であれば、地域サービスの利用に関係なく受講できます。居住地、受診の有無などの制限はほとんどありません。
TYPE 2 <input type="checkbox"/> リカバリーカレッジは、特定の人々に限定しています。	私たちのリカバリーカレッジは、精神保健医療福祉サービスの現在または過去の利用者である大人（16歳あるいは18歳以上）を対象としています。保健医療福祉や地域の団体のスタッフ、または家族やケアラー（ケアしている人）が含まれる場合もあります。私たちにとって「インクルーシブ」であるとは、例えば、特定の診断名、学習困難、身体の健康や移動に関する困難を持つ人々を差別したり、受講への障壁を作ったりしないということです。

9. 開講場所

リカバリーカレッジの講座が開催される場所は様々です。

	タイプ
TYPE 1 <input type="checkbox"/> リカバリーカレッジは、保健医療福祉サービスではない地域の場所で主に開講しています。	リカバリーカレッジは、医療や福祉の建物ではなく、意図的に地域や身近な場所にあります。
TYPE 2 <input type="checkbox"/> リカバリーカレッジは、保健医療福祉サービスの場所で主に開講しています。	リカバリーカレッジは、医療や福祉の施設の中または関連施設にあります。 (例: 付設の建物)。

10. 講座内容の特徴

リカバリーカレッジは、提供される講座の内容や題材が様々です。

	タイプ
TYPE 1 <input type="checkbox"/> 生涯学習などで行われているかどうかにかかわらず、どのような内容も講座として提供しています。	地域の生涯学習でも提供されている内容の講座が含まれています。例えば、ガーデニング、アート、数学、英語、金銭管理、福利厚生理解、健康管理、求職活動、家のメンテナンス、様々なレジャーやレクリエーションなどです。
TYPE 2 <input type="checkbox"/> 生涯学習では扱われていない内容のみを提供しています。	地域の生涯学習で学べるような話題の講座が含まれることはありません。また、リカバリーに特化した講座、例えば、癒しのためのガーデニング、リカバリーのためのアートなどがあります。

11. 強み(ストレングス)が基本

強み(ストレングス)に基づいたアプローチ(問題点ではなく、資源や可能性に焦点をあてる)は、リカバリーカレッジでの言葉や講座や教材に、明確に、または暗黙に含まれています。

	タイプ
<p>TYPE 1</p> <p><input type="checkbox"/> 強みに(問題ではなく)焦点を当てることが、カレッジでは暗黙の了解となっています。</p>	<p>リカバリーカレッジが提供する学びの機会、受講者の経験、強み、資源、特徴を暗黙のうちに基盤としています。「強み(ストレングス)」という言葉はあまり使われていません。</p>
<p>TYPE 2</p> <p><input type="checkbox"/> 上記の1~7に加え、強みに(問題ではなく)焦点を当てることがはっきりと示されています。</p>	<p>リカバリーカレッジが提供する学びの機会には、受講者の経験、強み、資源、特徴が活かされています。「強み(ストレングス)」という言葉は、スタッフや受講者によって日常的に使われ、講座教材やリカバリーカレッジの他の側面の特色となっています。</p>

12. 進むこと

前向きに、目標に向かう受講者の体験に焦点を当て、それを可能にし、奨励する方法は様々です。

	タイプ
<p>TYPE 1</p> <p><input type="checkbox"/> 目標設定ではなく、「いること」「所属すること」に焦点が当てられています。</p>	<p>リカバリーカレッジは、一人ひとりの受講者の学習ニーズ、安全と所属感、自分らしさや意味をみつけたり、振り返りをサポートしています。このカレッジでは、行動目標の設定は求められません。受講者は本人の望む方向に向かって学ぶことができます。受講者によっては、それが前進することではない場合もあります。</p>
<p>TYPE 2</p> <p><input type="checkbox"/> 「～になる」に重きを置き、目標設定と変化を強く意識しています。</p>	<p>リカバリーカレッジは、受講者に機会やチャンスにつながる道筋を提供し、自分の人生を歩めるようにサポートすることを重視しています。これには、目標志向の個人計画（個人の学習計画）の活用や、目標志向の活動計画を立てることと見直しが含まれます。</p>

The RECOLLECT Checklists and Fidelity Measure were developed as part of the RECOLLECT Programme at University of Nottingham. Further information from researchintorecovery.com/recollect. This translation was published in year by name and contact details of translator. This translation was published in 2022 by Akiko Sakamoto (sakamoto_akiko@kurume-u.ac.jp), Megumi Kurokami (kuro@fukuoka-u.ac.jp) and Yuki Miyamoto (yyuki@m.u-tokyo.ac.jp).

RECOLLECT チェックリストとフィデリティ（忠実性）尺度は、英国ノッティンガム大学でのRECOLLECTプログラムの一部として開発されました。より詳しい情報はこちらから researchintorecovery.com/recollect. この日本語版は2022年、坂本明子 (sakamoto_akiko@kurume-u.ac.jp)、黒髪恵 (kuro@fukuoka-u.ac.jp)、宮本有紀 (yyuki@m.u-tokyo.ac.jp)により作成されました。

Distributed using Creative Commons License: CC BY-NC-ND 4.0.